

I

千葉県の人ロの 状況分析

- (1)人口及び年齢別人口構成の推移…… 2
- (2)人口動態の分析…… 5
- (3)県民の希望(アンケート調査より)……18

(1)

人口及び年齢別人口構成の推移

① 総人口の推移

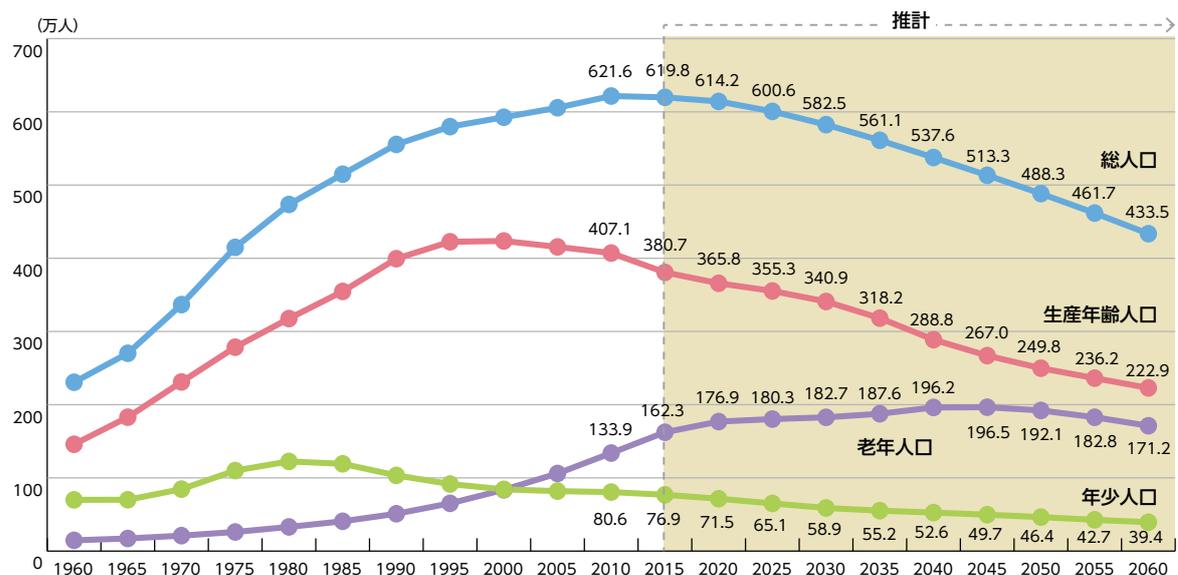
本県の総人口は、2010年の621.6万人をピークに、2011年には人口が減少したが、その後2014年に改めて増加した。

なお、今後については、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の将来推計に準拠し、一部再計算を行った推計^{*1}(以下「社人研推計(一部再計算)」という。)では、2060年には433.5万人と、2010年からの50年間で約188万人、30.3%減少し、生産年齢人口^{*2}については407.1万人から222.9万人と、45.2%減少する見込みとなる。(図1)

※1…社人研の推計では、千葉市中央区・稲毛区、柏市、我孫子市、浦安市の5市区においては震災の影響が10年続くものと仮定して推計を行っているが、既に人口動態は回復基調にあることから、社人研推計より早期に震災以前の趨勢に戻ると仮定し再計算を行った。

※2…「生産年齢人口」とは15歳から64歳までの人口である。
また、「年少人口」は0歳から14歳までの、「老年人口」は65歳以上の人口である。

図1 総人口及び年齢3区分別人口の推移



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」、社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)(一部再計算)(2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。)(端数処理の関係で、3区分の和が、総人口に一致しないことがある。)

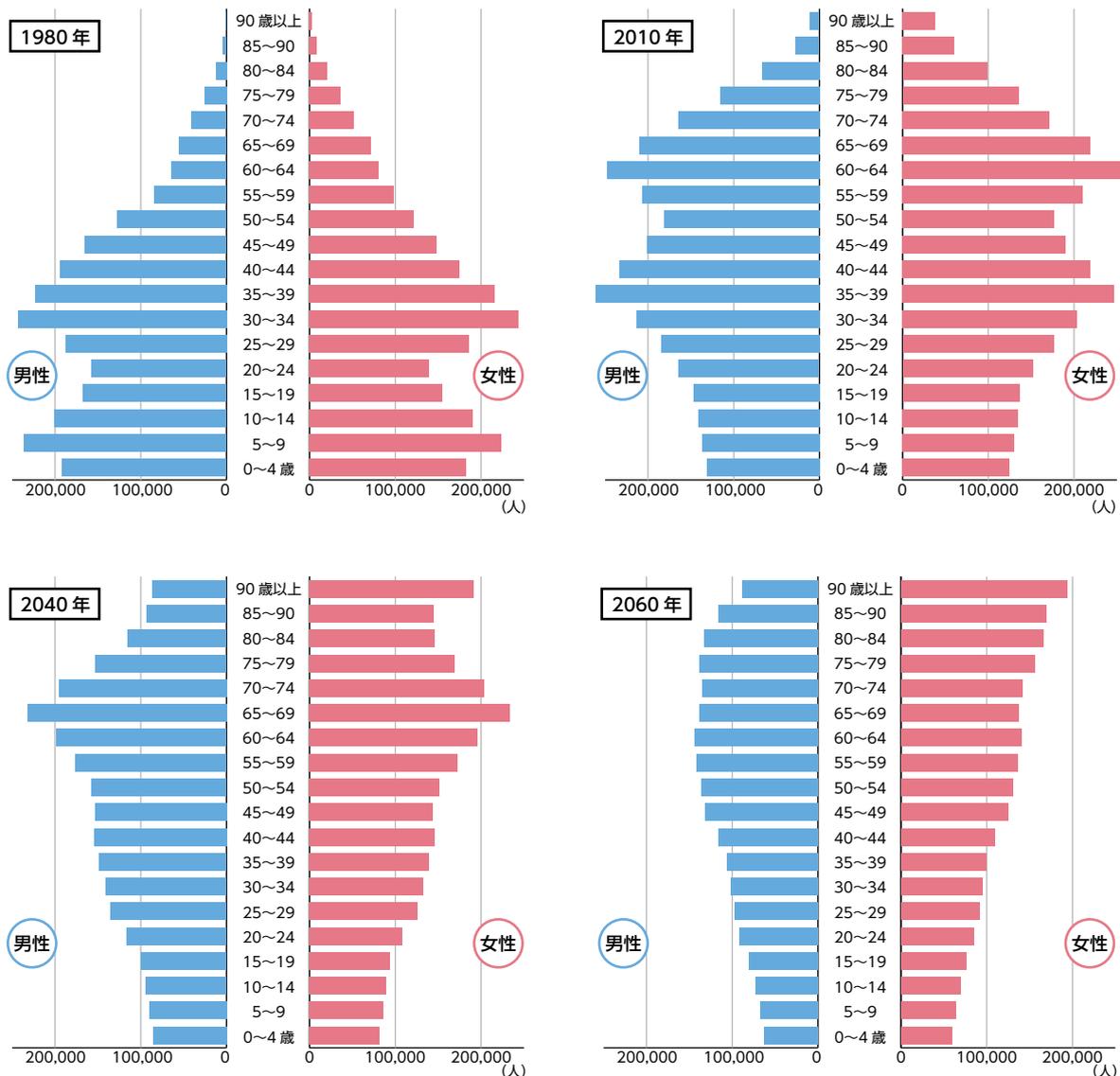
② 少子高齢化の進展

○年齢別人口構成

本県の年齢別人口構成についてみると、1980年には年少人口が25.9%、生産年齢人口が67.1%、老年人口が7.0%と、ほぼピラミッド型を形成していたが、2010年には、1980年に比べて、年少人口が12.9ポイントの減少(13.0%)、老年人口が14.5ポイントの増加(21.5%)となり、いわゆるつぼ型を形成する構成となった。

社人研推計(一部再計算)では、今後も年少人口及び生産年齢人口の減少が続き、2060年には、2010年に比べて、年少人口が3.9ポイントの減少(9.1%)、老年人口が18.0ポイントの増加(39.5%)となり、下すぼみのつぼ型に向かっていく見込みとなる。(図1、図2)

図2 年齢別人口構成



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」、社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計) (一部再計算) (2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。)

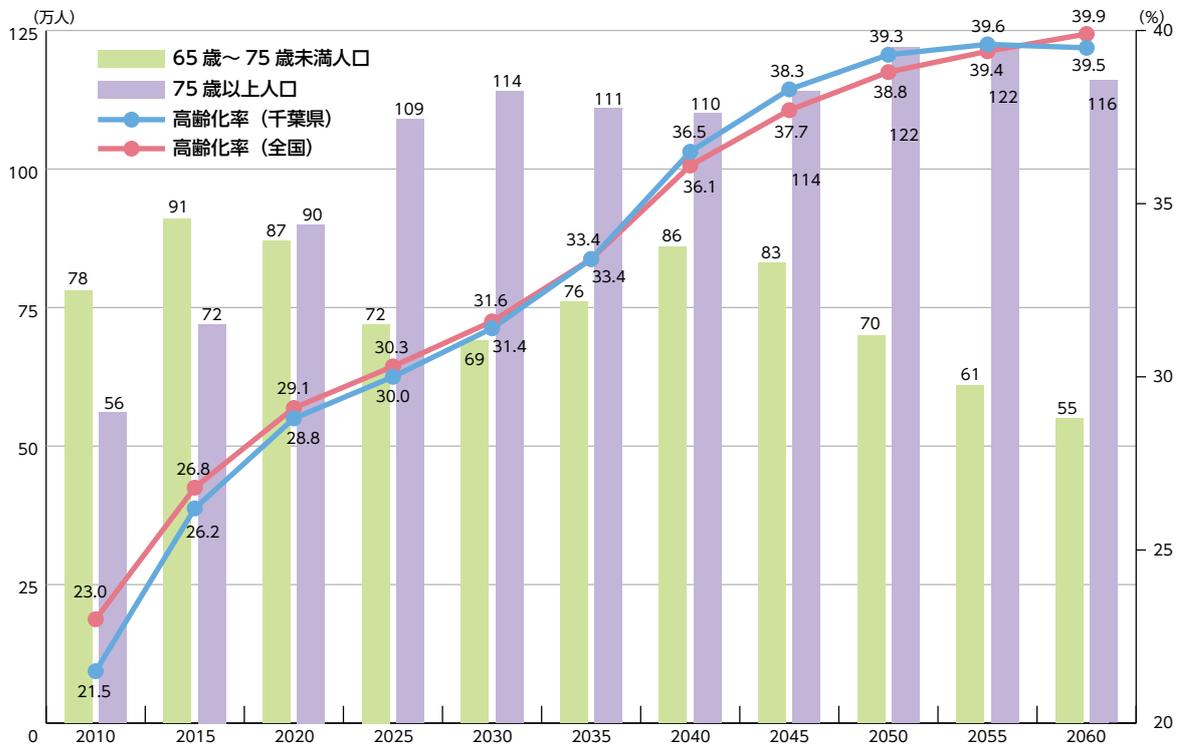
○高齢化の状況

本県の2014年の高齢化率[※]は25.3%であり、これは全国で10番目に低い数値であるが、65歳以上人口の対前年増加率は、全国2位(4.4%)となっている。

社人研推計(一部再計算)では、今後、急速に高齢化が進行し、高齢化率は2040年には36.5%まで上昇(2.7人に一人が高齢者)し、全国を上回る見込みとなる。その後、2055年には39.6%まで上昇し、2060年には全国を下回るものの、39.5%(2.5人に一人が高齢者)となる見込みとなる。(図3)

※高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の割合

図3 高齢化の状況



資料：社人研「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」
 社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(一部再計算)
 (2040～2060年は、まち・ひと・しごと創生本部提供資料に基づき算出したもの。)